

磯崎 博司（上智大学）

バラスト水の処理技術承認手続き透明性向上のため 世界バラスト水試験機関ネットワークが設立

船舶のバラスト水および沈殿物の規制および管理のための条約（2004年）は、定められたバラスト水管理措置をとることを義務づけており（本誌2003年8月号）、その附属書Dはバラスト水処理基準を定めている。この分野の研究開発は急速に進められており、さまざまなバラスト水処理技術が考案されているため、その有効性を試験・評価し、上記の基準に適合していることを承認するための厳格な手続きが必要とされる。

そのためのガイドラインは、国際海事機関（IMO）によって採択されている（MEPC.174 (58)）。しかしながら、その試験・評価を行う諸試験機関の間において標準化と調和が欠けていることが懸念されている。とくに、船主は、どの機関が試験・評価したかにかかわらず国際的に受け入れられることを期待している。

それに応えて、2013年10月に釜山で開かれた第5回世界バラスト水管理研究開発フォーラムに先立って、GloBal TestNet（世界バラスト水試験機関ネットワーク）を設立するための覚え書きが16の試験機関によって10月21日に署名された。

GloBal TestNetは、バラスト水の処理技術の承認手続きにおいて標準化、透明性および公開性を向上させることならびに情報共有のための中立的な基盤を提供することを通じて、比較可能で正確な試験結果の保証と情報交換の促進を目的としている。船主も、利用可能な信頼できる処理技術を比較することができるようになる。

GloBal TestNetは、バラスト水管理条約および関連ガイドラインまたは規則の下で、バラスト水管理システムの証明に関わるすべての機関に開放されており、参加機関の世界的な増加が想定されている。また、GloBal TestNetには、バラスト水管理条約の早期発効とともに、複雑なバラスト水処理基準や手続きの改善に貢献することが期待されている。

バラスト水管理条約は30カ国の批准と世界の商船船腹量の35%を越えてから12カ月後に発効するが、2014年2月時点で、38カ国と30.38%である。

環境の本

eco検定 公式テキスト 改訂4版

編著●東京商工会議所

東京商工会議所が2006年にスタートさせた環境社会検定試験（eco検定）の受験用テキストとして、2月に発行された。285ページに及ぶ力作で、「環境とは何か」から始まって「地球人としての責任、将来世代への責任」の最終章まで、大きなストーリーを展開するように書かれており、読み物としも退屈せずにページをめくることができる。



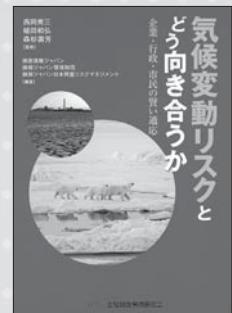
eco検定はこれまでに33万人が受験し、20万人が合格している。受験者はビジネスマンを中心に学生、NPOのスタッフなど多岐にわたっている。本検定に合格した人は「エコピープル」と呼ばれ、企業内や地域で行動を起こすことが奨励されているが、企業にとって必要な人材として、さらに多くのビジネスマンがトライし、合格することを望みたい。

（2,600円+税）

気候変動リスクとどう向き合うのか ～企業・行政・市民の賢い適応

監修●西岡秀三・植田和弘・森杉壽芳

（公財）損保ジャパン環境財団は、有識者による気候変動への適応をテーマとした「環境問題研究会」を3カ年にわたり開催してきた。先月末横浜で行われたIPCCの定期総会を契機として、研究会の成果が多層的にまとめられることとなった。



理論面から気候変動のリスク管理・分析について、実践面から企業・NPOの取り組みといった、双方からのアプローチを紹介している。

気候変動は企業の重大なリスクとなるという視点から産・学・官の取り組みについて書かれており、企業のCSR担当者や気候変動への適応策について横断的知識を得たい人の専門書として役立つ。

（きんざい、2,800円+税）